

慈恵園だより

特別号

えがお

- 発行日／平成26年1月26日
- 発行所／芦別市旭町28番地
特別養護老人ホーム 芦別慈恵園
- 発行責任者／川邊弘美
- 印刷所／(株)ワタナベ企画いんさつ

★2月8日「雪灯りを歩く会」9日「JC雪祭り」を開催します！
たくさんのご参加お待ちしております。



第4回まちづくり講演会を開催しました たくさんのご参加ありがとうございました

第4回まちづくり講演会を十一月二十九日に開催しました。市民の方一七〇名の参加でした。

講師に社会福祉法人美瑛慈光会理事長の安倍信一氏を迎え「町と住民たちと慈光園の取り組み」について講演していただきました。

安倍理事長は美瑛町の広大な地域に暮らすお年寄りが住み慣れた場所で暮らし続けるための介護サービスを整備するために、地域の住民と行政と事業者法人が話し合い、様々な検討を重ね美瑛町独自の「地域密着サービス」の活用に至る過程について講演されました。

住民の要望を事業者が行政に伝え課題について何度も話し合い、住民・行政・事業者の三者が信頼関係を築く事で実際の小規模多機能型介護施設の準備や運営にも住民が積極的に関わり、地域の実情に合わせた介護サービスの仕組みが出来るそうです。お年寄りも時間をかけて市街地の施設まで通う負担もなく、小規模多機能を拠点とした在宅生活を安心して続けられています。

住民と行政と事業者が、それぞれ力を結集する事で、利用しやすく安心できる地域密着のサービスを作る事が住み慣れた地域での生活が可能になると話されていました。

講演後、参加者の方々からは「事業所間の協力、町内の連携、ケアマネ、民生委員、近所のつながりが大切だと思う」「ある程度の地域の集約、個々の尊厳を守りながらケアのしやすい仕組み作りが必要と思う」

「地域の交流による一人暮らしの支援や見守りが必要」などの感想やご意見がありました。

＜参加者の意見から＞

- ★注目したのは地域住民との協働、支え合う地域コミュニティの大切さ、協働の力を持ち合う、出し合うことの重要性。一人ひとりが地域社会を構成する一員として尊重される。安全で快適な生活ができる社会づくりが福祉の原点。
- ★特養、老健の待機者が多いと言われるが、施設を作ればいいのか。施設を作ることも大切だが、そうなる前の地域での見守りが大切。
- ★地域拠点に求められる事として『デザインが必要、デザインを出すのも取りまとめるのも、住民、事業者、行政の三者がそれぞれの強みを生かして行う事が本来の完成した姿』とあり早くそうなればいいなと強く感じた。

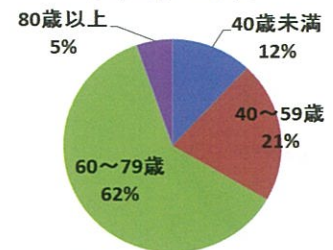


第4回まちづくり講演会にご参加ありがとうございました。

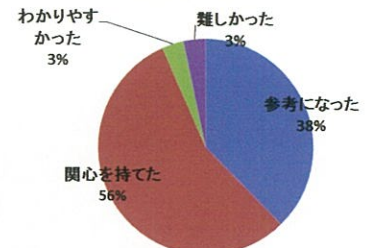
芦別慈恵園は、芦別市民の方が99%入居されています。市内で唯一の特養であり、役割を担い介護と医療が協力し支えあう取り組みを行っています。

＜アンケート集計結果＞

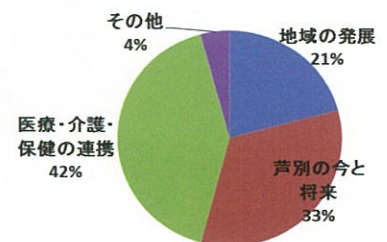
参加者の年代



講演の感想



聞いてみたい講演内容



サテライト型居住施設

「かざぐるま」からお知らせ



＊地域食堂より
金曜日に カレーの日が
出来ました！（第1、3、5週）

＜第2、4週は そばの日です＞

慈恵園伝統の味です。

ぜひ食べてみてください。

予約は 24-6333(いとう)

★かざぐるま地域食堂★

芦別市北4条西2丁目 12 番地

営業日…予約必要です
月曜から金曜の

12:00～13:30

1食…500円

70歳以上の方…300円

(※そばの日は500円)

小学生まで…300円

★映画上映会(子供向け)で

ランチも一緒にいかが？

大人300円と子供200円